

雲仙天草国立公園 雲仙温泉園地

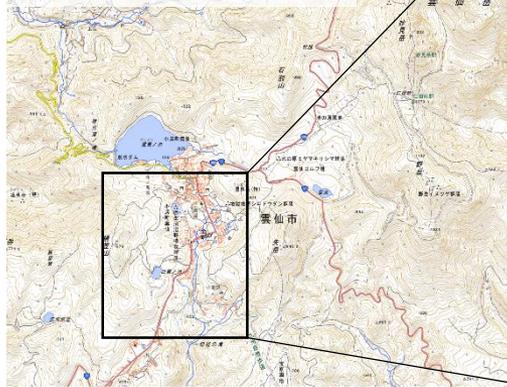
変更

- 区域面積：29.1ha→34ha
- 執行者：環境省、長崎県、雲仙市

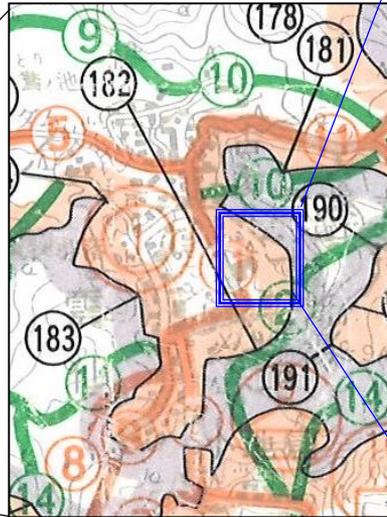
第1,2種特別地域（国有地（環境省、林野庁）、長崎県有地、雲仙市有地、私有地）

●位置図

長崎県雲仙市 (雲仙温泉)

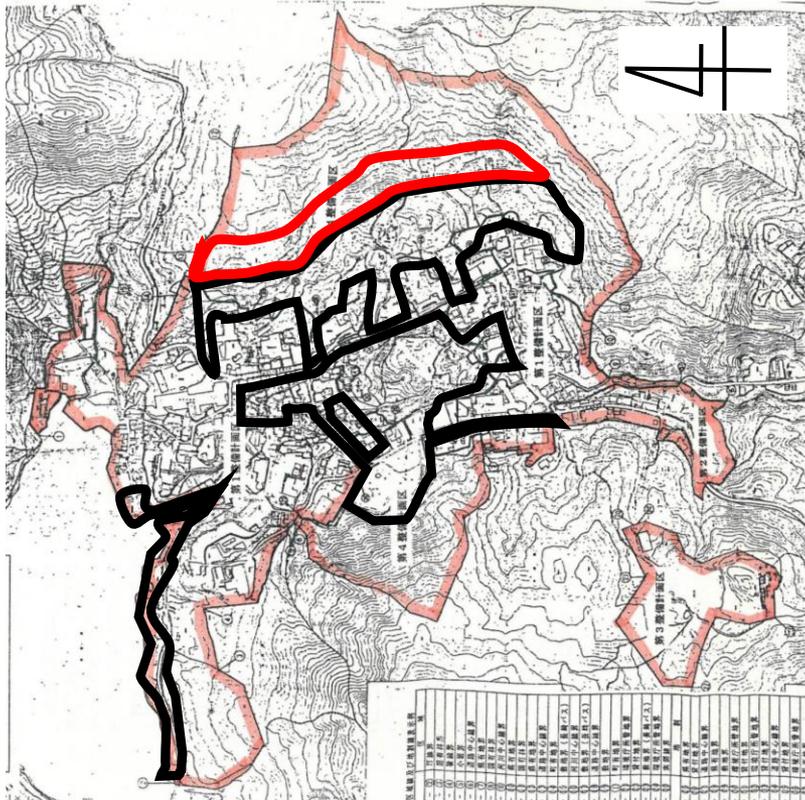


●計画図



- 雲仙温泉集団施設地区は、温泉利用や仁田峠の自然風景鑑賞、普賢岳登山等の雲仙地域の利用の一大拠点として、宿泊施設や園地、ビジターセンターなどが整備され、年間多くの観光客が訪れている（令和元年利用者数：124万人程度）。特に雲仙地獄（当該地区）は、雲仙への来訪者の大部分が利用する重要な観光地である。
- 令和3年8月13日、雲仙地獄（八万地獄）の上部斜面が崩壊し、土砂等が国道57号まで流下。民間施設（土産物店、飲食店、ホテル建設現場、温泉引湯管等）及び自然公園施設（展望台、遊歩道、東屋、公衆トイレ）が被災した。

— 追加する範囲
— 変更前（現行執行区域）



雲仙市が再整備したカフェ（地元企業が運営）も全壊



- 八万地獄では集団施設地区上質化計画（R元年度雲仙市策定）に基づき、景観上の課題であった廃屋の撤去や温泉引湯管の整理等に向けた取組が進められていた。
- 現在、今回追加する斜面区域を含めた八万地獄全体の一体的な再生に向けて、国・県・市・民間の連携体制の更なる強化を図り、各種事業を迅速に進めている。

八万地獄の創造的な再生

(イメージ図)

- 八万地獄については、単なる現状復旧にとどまらず、観光客の安全確保と併せ、長年の課題であった温泉引湯管等の整理など、これまで以上に価値を高める「創造的な再生」に向けて、関係機関が連携して取り組む予定である。
- 創造的な再生に当たっては、関係者間における温泉施設の整理及び温泉資源等を活用した利用促進等に関する議論・検討に加え、上質な利用拠点づくりの観点から、八万地獄全体の「ランドスケープデザイン」の導入が重要である。
- 今回拡張する事業区域では、長崎県において、ランドスケープデザインに基づく安全対策を兼ねた植生復元等に加え、環境省・雲仙市と連携した事業実施が予定されている。
- なお、今回の拡張区域は、崩落地を中心に植生復元エリアを想定した区域に限定しており、それ以外に新たな自然改変は伴わない。

